



株式会社みずほフィナンシャルグループ

グリーンボンドフレームワーク

2023年2月

目次

1	はじめに	2
2	フレームワーク概要	6
2.1	調達資金の用途	6
2.2	プロジェクトの評価と選定プロセス	11
2.3	調達資金の管理	12
2.4	レポーティング	13
3	外部レビュー	15
4	付録	15

1 はじめに

株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下、みずほ FG）は、世界最大規模の金融グループであるみずほグループ（以下、〈みずほ〉）の最終親会社である日本の銀行持株会社です。〈みずほ〉は、国内外の市場において幅広い金融サービスを提供しています。

〈みずほ〉は、サステナビリティを経営戦略と一体的に捉え、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの低減の両面から取り組み、SDGs 達成に貢献していくことをめざしています。

2022 年には、近年の社会の持続性が企業に及ぼす影響の拡大を踏まえ、社会と〈みずほ〉の持続可能性を高め、〈みずほ〉の中長期的な価値創造に向けた考え方をより明確にする観点から、サステナビリティへの取り組みの基本的考え方を見直すとともに、マテリアリティ（サステナビリティ重点項目）の定義を明確化し、内容の見直しを行いました。

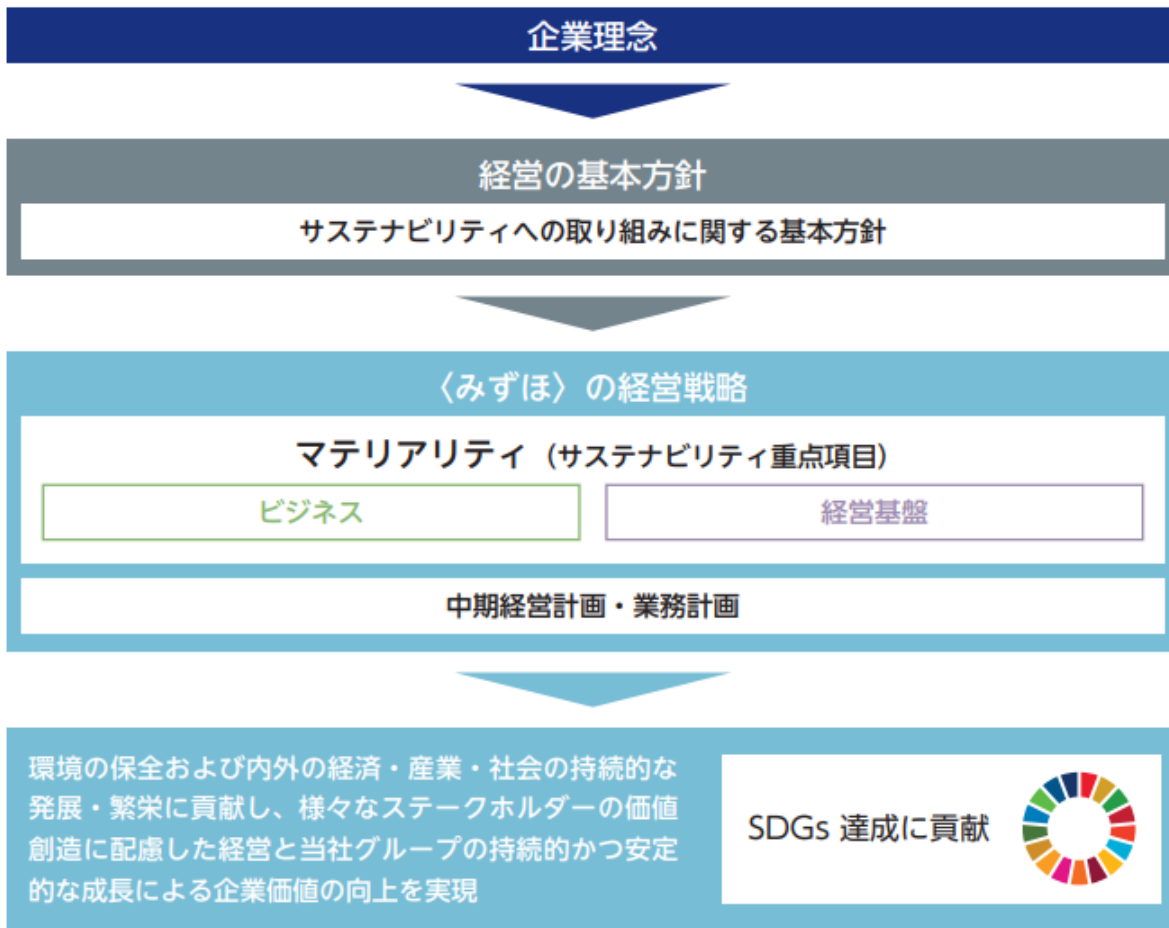
**みずほにおける
サステナビリティ**

環境の保全および内外の経済・産業・社会の持続的な発展・繁栄、
ならびに当社グループの持続的かつ安定的な成長

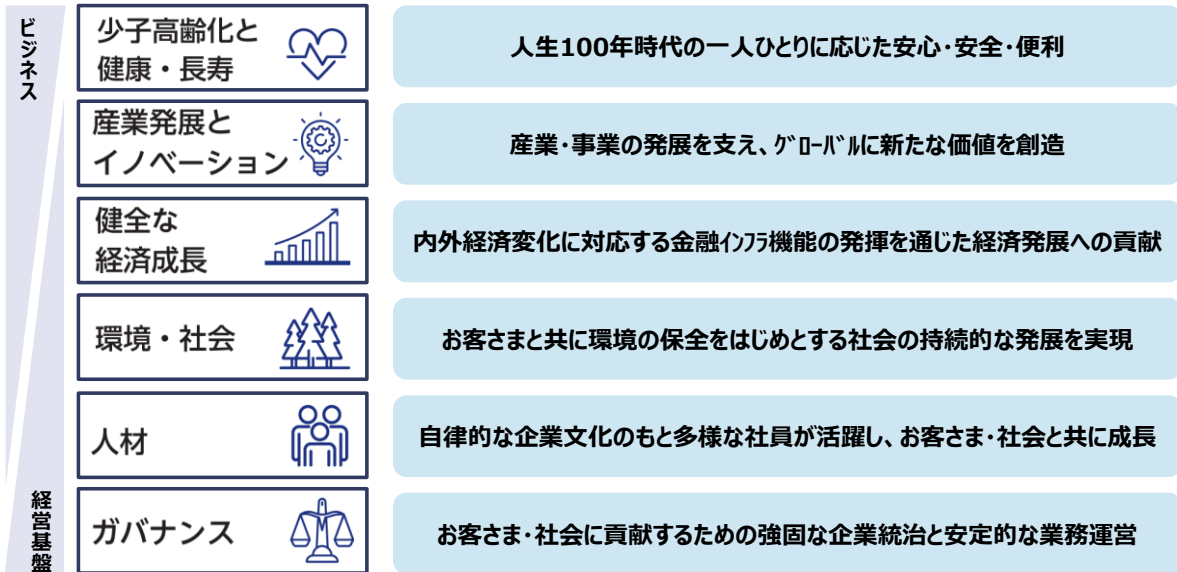
**マテリアリティの
定義**

〈みずほ〉と、お客さま、社員、経済・社会をはじめとするステークホルダーの
持続的な成長・発展にとっての中長期的にわたる優先課題

マテリアリティの位置づけ



6つのマテリアリティ

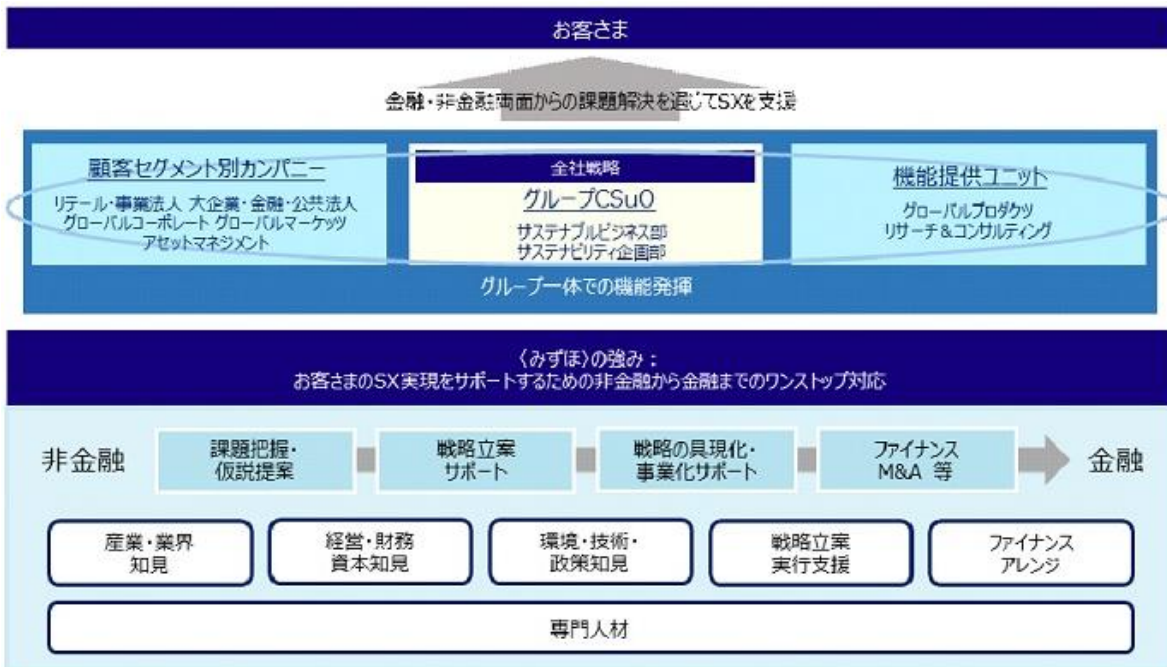


〈みずほ〉は、中長期を見据えたお客さまの持続的な成長・企業価値向上および産業の競争力強化を念頭に置いたお客さまとのエンゲージメントを起点に、脱炭素社会への移行をはじめとするお客さまのサステナビリティ・トランスフォーメーションに向けた取り組みを、金融・非金融機能を活用した様々なソリューション開発・提供で支援していきます。お客さまと〈みずほ〉双方にとっての機会の拡大とリスク管理の強化を通じ、お客さまと〈みずほ〉双方の発展を追求していきます。

2022年9月には、サステナビリティへの取り組みをグループ横断でより一層強力に推進していくために、〈みずほ〉におけるサステナビリティ領域の推進責任者としてサステナビリティ推進担当（グループ CSuO）を新設しました。また、これまでの顧客セグメント別のビジネス戦略を活かしつつ、グループ CSuO 直下に新設する新規部署（サステナブルビジネス部、サステナビリティ企画部）を通じて、サステナブルビジネス推進に係る全社的な戦略軸を強化することで、お客さまそれぞれに対する個別の取り組みに一層の推進力を生み出すとともに、課題解決に向けた先見性ある取り組みを活発化していきます。¹

¹ 〈みずほ〉のサステナビリティ重点項目やサステナビリティ推進体制は、下記のリンクよりご覧いただけます。

<https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/mizuhocsr/index.html>



環境保全やSDGs達成に向けた資金の流れを作るため、サステナブルファイナンス・環境ファイナンスの長期目標を設定し、積極的な資金供給を行っています。

移行計画との関係	主なモニタリング指標	目標	直近実績
GHG排出 ネットゼロ	Scope1,2 排出量	目標前倒し 2030年度 カーボンニュートラル (以降もカーボンニュートラルを継続)	2021年度 (暫定値) 153,262 tCO ₂ - Scope1 : 11,341 tCO ₂ - Scope2 : 141,921 tCO ₂
	Scope3 (投融資を通じた排出)	2050年ネットゼロ	—
	- 電力セクター	新規 2030年度 138-232 kgCO ₂ /MWh	2020年度 388 kgCO ₂ /MWh
脱炭素化 ビジネスの強化	サステナブルファイナンス、 環境ファイナンス	2019-30年度累計 25兆円 (うち環境ファイナンス12兆円)	2019-21年度累計 13.1兆円 (うち環境ファイナンス 4.6兆円)
気候関連 リスク管理の 高度化	環境・社会に配慮した投融資の 取組方針に基づく 石炭火力発電所向け与信残高削減目標	2030年度までに 2019年度対比50%に削減、 2040年度までに残高ゼロ	2021年度末 2,486億円 (2019年度末比 △17.0%)
	移行リスクセクターにおける 高リスク領域エクスポージャー	中長期的に削減	2021年度末 1.6兆円

■ サステナブルファイナンス・環境ファイナンスの定義

関連する主なサステナビリティ重点項目	<ul style="list-style-type: none">● 環境・社会● 健全な経済成長● 産業発展とイノベーション
対象ファイナンス	<ul style="list-style-type: none">● 環境・社会事業を資金使途とするファイナンス● ESGやSDGsへの対応について考慮・評価、または、条件とする等ESG/SDGsを支援・促進するファイナンス等
対象業務	<ul style="list-style-type: none">● 融資、引受、投資、運用

2 フレームワーク概要

みずほ FG では環境への取り組みをさらに加速させるため、適格な環境関連事業（以下、適格グリーンプロジェクト）への融資を目的としたグリーンボンドの発行を予定しています。みずほ FG がグリーンボンドを発行し、みずほ銀行が適格グリーンプロジェクトへの貸出を管理します。グリーンボンドの発行により調達した資金を通じてファイナンスまたはリファイナンスされる既存または新規プロジェクトはすべて、以下に記載される調達資金の使途のクライテリアに基づいていなければなりません。

グリーンボンドとは、資金使途が特定され、かつ適格グリーンプロジェクトへのファイナンスまたはリファイナンスにのみ適用される債券です。グリーンボンドフレームワークは国際資本市場協会（ICMA）が管理するグリーンボンド原則 2021（2022年6月付録I改訂）（以下、GBP）の4本の柱に沿って作成されています。²GBPは、グリーンボンドを発行する方法を明確にすることでグリーンボンド市場の発展における透明性と開示を推奨し、誠実性を促進する自主的なガイドラインです。

2.1 調達資金の使途

グリーンボンドの発行により調達した資金は、みずほ FG の社内投資クライテリアを満たす既存または新規の適格グリーンプロジェクトへのファイナンスまたはリファイナンス（全部または一部）に充当します。

適格グリーンプロジェクトは以下のすべての条件を満たすものです。

² <https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/green-bond-principles-gbp/>

i) 下記の適格プロジェクトカテゴリー1から8の少なくとも一つ以上に該当していること。

プロジェクトカテゴリー	プロジェクトの種類	SDGs
1. 再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生可能エネルギーの発電施設の開発、建設、運営に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 風力（陸上／洋上）、太陽光、太陽熱、バイオマス（持続可能な原料または廃棄物に限る）、地熱（CO2 直接排出量が 100gCO2/kWh 未満のプロジェクトに限る）、小規模水力（人工貯水池のない、または貯水能力の低い、流れ込み式の水力発電施設等）の再生可能エネルギーの発電施設の開発、建設、運営に関する事業 ・ 上記に資する技術・装置の開発および生産 ・ 再生可能エネルギーの送電および配電 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 以下のうちいずれかの営業電力網の開発および建設 <ul style="list-style-type: none"> (i) 電力網に再生可能エネルギーを接続するためのもの、または (ii) サポートまたは統合する電力のうち、再生可能電力が 90%以上を占めるもの。以下を含む <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地上送電線と配電線、例えば架空送電線、導体、絶縁体、塔および建物、フェンス、地表用マット、バスバーなどのインフラ資産 ✓ 高電圧および／または超高電圧の相互接続システム上の送電線 ◇ ヒューズ、サーキットブレーカー、断路器、リアクター、コンデンサー、変圧器、電圧調整器、スイッチギヤを含む再生可能エネルギーのグリッド内ロスを抑えるための分散資産（電力網の構成部品） 	7
2. 汚染防止及び抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル・廃棄物処理発電 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 廃棄物のリサイクルや廃棄物処理発電等の汚染防止・管理のための施設の開発、建設、運営に関する事業。発電の燃料は、プラスチック／ゴム／タイヤ由来燃料（TDF）からエネルギー／燃料への変換、操業中の埋立地からのガス回収、およびフレアリングのための埋立地ガス回収を含まない家庭廃棄物、商業廃棄物、または市場の廃棄物 	12

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気排出の削減 ・ 温室効果ガス管理 ・ 海洋に優しい化学物質とプラスチック関連分野 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 河川・沿岸地域におけるプラスチックや化学物質、汚染物質等の流出を防止する事業 ・ 持続可能な海運・港湾物流分野 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 船舶・造船所・港湾等における汚染水・廃棄物・排出物等の管理や削減を行う技術・製品・インフラ・システム等の開発、製造、建設、改修、運営、取引 	
3. クリーン輸送	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗用車や大量輸送交通、インフラ投資 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 公共交通機関（化石燃料を使用するものを除く）の建設、運営、改修および鉄道、非電動輸送（自転車等）、電気自動車、マルチモーダル輸送の拡大と改善のためのインフラ・技術の開発、運営、更新に関する事業 ・ 海運・港湾物流 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 電気、バイオ燃料、または水素を動力源とする、低カーボン・ゼロカーボンの新造船船舶（市場慣行に沿った排出基準値に従う）の生産 ◇ 既存の旅客船や貨物船の改造で、上記のような低カーボン燃料への転換を伴うもの ◇ バイオ燃料、水素、アンモニア、メタノールの燃料補給施設、ならびにコンセント、配電、制御システムなどの陸上電力供給システム向けインフラといった船舶インフラ 	11
4. グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンボンド償還までに、以下の認証の少なくとも一つを取得済みまたは取得する予定の建築物。グリーンボンドで調達された資金は、J-REIT（日本の不動産投資法人）が保有する物件を含め、下記の認証を取得した適格グリーンビルディングへのみずほ銀行による新規・既存の融資に充当されます <ul style="list-style-type: none"> ◇ LEED（エネルギーと環境デザインにおけるリーダーシップ）：Platinum または Gold ◇ BREEAM（英国建築研究所建築物性能評価制度）：Outstanding または Excellent ◇ CASBEE 不動産評価認証（建築環境総合性能評価システム）：S ランクまたは A ランク ◇ DBJ Green Building 認証：5 つ星または 4 つ星 ◇ BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）：5 つ星または 4 つ星 	9

	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready、ZEB Oriented / ZEH、Nearly ZEH、ZEH Ready、ZEH Oriented (いずれも BELS の 5 つ星と同等以上の省エネ性能を有する) ◇ 気候債券イニシアチブ (CBI) が定める商業建物の現地プロキシ (尺度数値) に適合する建築物 ・ CBI が定める低カーボン建築物基準に規定される、債券の期間に基づく低カーボントラジェクトリーに沿ったエネルギー効率化投資および/または建物の改修を含む建物のアップグレード (ベースライン比 30%以上の CO2 排出量削減) 	
5. エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンドユーザーのエネルギー効率 ◇ モーターを使用しない、または (化石燃料由来でない) 電気を動力源とする、エネルギー効率の良い技術・製品または設備の購入および設置・改造のうち、環境・エネルギー性能に関する第三者認証 (とりわけ ENERGY STAR 認証) を取得したもの ◇ その他エネルギー効率の良い技術・製品またはハードウェアシステム、例えば化石燃料を使用しない LED・スマート照明ソリューション・日光制御、建物管理システム (BMS)、冷暖房空調設備のアップグレード 	7
6. 持続可能な水資源及び廃水管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水供給 ◇ 節水効果のある水供給インフラの開発、建設、取得、運営、改修 ◇ 海水淡水化プラントの開発、建設、取得、運営、改修 ◇ 飲用・飲料水の供給・アクセスを増やすための商品および技術の開発、製造、取引 ◇ ウォーターフットプリントを削減および/またはモニタリングする技術や機器、システムの開発、製造、取引 ・ 水の衛生 ◇ 水処理インフラの開発、建設、運営、改修 ◇ 水処理インフラの効率性や効果を高める技術や製品、システムの開発、製造 	6
7. 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林産製品：以下のものの栽培および/または購入 ◇ Forest Stewardship Council (FSC) または Program for the Endorsement of Forest Certification (PEFC) が認証した製品・事業 ・ 農業：以下のものの栽培および/または購入 	14, 15

	<ul style="list-style-type: none"> ◇ Rainforest Alliance または USDA Organic が認証した製品・事業 ・ 土地保全 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 原生林および高い保護価値を持つ森林の保全および／または回復 ◇ 土壌改善 ・ 漁業、養殖業、水産物のバリューチェーン <ul style="list-style-type: none"> ◇ 陸上養殖事業 ◇ 藻類や海洋微生物等の培養事業に関わる研究、開発、運営、取引 ◇ Marine Stewardship Council (MSC)、Aquaculture Stewardship Council (ASC)、マリン・エコラベル・ジャパン (MEL) 認証基準のいずれかを満たす漁業および養殖業、または上記基準を満たすための投資 ◇ MSC、ASC、MEL の認証基準いずれかのラベルの付いた水産物の生産、取引 ◇ MSC、ASC、MEL 認証基準のいずれかの CoC 認証基準を満たす流通業・加工業・小売業または上記基準を満たすための投資 	
8. 陸上及び水生生物の多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性の保全 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生物多様性および貴重な自然生息地の保全および／または回復 ◇ 都市部における生物多様性の保全および／または回復 ・ 海洋等の生態系の保全・回復 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 海洋や沿岸、河川の生態系の保全・改善・回復のための事業、技術、システム等の開発、運営、取引 	14, 15

ii) 当該グリーンボンドの発行日から遡って 24 ヶ月以内にみずほ銀行が融資したプロジェクト、または発行日以降に新規に融資するプロジェクトであること。

長期のグリーン資産に対して、複数回のグリーンボンドによる調達資金でリファイナンスを行う場合、みずほ FG は、本グリーンボンドフレームワークに基づく最初のグリーンボンドの発行に先立って当該資産の経過年数および残存耐用年数を第三者機関に開示し、当該機関が年次レビューを行う際に最新の情報を提供します。提供された情報は、当該機関によるレビューを受け、長期のグリーン資産の環境改善効果の持続性が確認されます。

以下は本グリーンボンドフレームワークから除外されることを明記します。化石燃料資産、化石燃料を利用した輸送機関／インフラ、主として化石燃料を輸送するインフラおよび輸送機関、防衛および安全保障、パーム油、木材パルプ、原子力発電、石炭火力発電、並びにすべての鉱業とたばこ業界に関連したプロジェクト。

投融資等を通じた環境・社会に対する負の影響を低減・回避するための、〈みずほ〉の「環境・社会に配慮した投融資の取組方針」につきましては、下記のリンク先をご覧ください。

<https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/business/investment/index.html>

2.2 プロジェクトの評価と選定プロセス

適格グリーンプロジェクトは、上記の適格クライテリアに基づき評価・選定されます。みずほ銀行の不動産ファイナンス営業部、プロジェクトファイナンス営業部、シンジケーション部、みずほFGのグローバルプロダクツ業務部、グローバルマーケット業務部、財務企画部など、多数の部署が関与するプロセスによって、特定・選定されます。

環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス

〈みずほ〉は、金融仲介機能やコンサルティング機能を発揮し、企業等の環境への取り組みを促進する金融商品やサービスの開発・提供を積極的に行うことで、環境へのポジティブな影響の拡大とネガティブな影響の回避・低減に努めています。投融資においては、環境・社会に配慮した投融資の取組方針に基づき、認識すべきリスクを検証した上で取り組むとともに、お客さまと中長期的な環境・社会課題についての対話（エンゲージメント）も実施しています。また、環境・社会に配慮した投融資の取組方針は、必要に応じて内容の見直しを行います。

プロジェクトファイナンスに関連する全ての事業については、みずほ銀行のプロジェクトファイナンス営業部または関連部署が、内部信用評価プロセスに従って、プロジェクトの財務上の実行可能性を評価します。さらに、自然環境や地域社会に影響を与える可能性のある大規模な開発プロジェクト案件に対しては、みずほ銀行のプロジェクトファイナンス営業部グローバル環境室がエクエーター原則に従って必要なレビューおよびデューデリジェンスを行い、社内の環境・社会的リスク評価に係るプロセスに基づきプロジェクトをカテゴリA、B、C³に分類します。カテゴリ分類は、エクエーター原則に則り、国際金

³エクエーター原則では、カテゴリAのプロジェクトは、環境及び社会に対して重大な負のリスク及び／又は多様で回復不能又は前例のないプロジェクトと定義されます。カテゴリBのプロジェクトは、環境及び社会に対して限定的な潜在的リスク、又は影響を及ぼす可能性があり、そのリ

融公社の環境・社会カテゴリー分類のプロセスに基づいて行われます。みずほ銀行は、このプロセスの一環として、各プロジェクトについて環境・社会的リスクへの負の潜在的リスクが最小限か、限定的か、重大かを評価します。リスクが「限定的」か「重大」である各プロジェクトについては、みずほ銀行の内部プロセスとして、グローバル環境室がプロジェクト事業者と連携のうえ、環境・社会リスクおよびその影響について評価し、管理にあたることによって、プロジェクトが自然環境や地域社会に与える影響に十分配慮して実施されることが確認されます。

なお、上記の適格プロジェクトカテゴリー4（グリーンビルディング）に該当するプロジェクトについては、対象となる建築物の環境性能評価において、LEED、BREEAM、CASBEE、DBJ グリーンビルディング認証、BELS 等により一定の認証レベルを取得していません。

〈みずほ〉の責任ある投融資等の管理態勢につきましては、下記のリンク先をご覧ください。

<https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/business/investment/index.html>

適格グリーンプロジェクトの選定

適格グリーンプロジェクトの選定プロセスについて、みずほ銀行が提供するファイナンスのリストをもとに、みずほ FG グローバルプロダクツ業務部等が適格グリーンプロジェクトの候補リストを策定します。みずほ FG のグローバルプロダクツ業務部等は、上記適格プロジェクトカテゴリー1 から 8 のいずれかに該当し、かつ上記条件 ii) を満たす候補プロジェクトを提案します。最終的に、みずほ FG のグローバルマーケッツ業務部と財務企画部が候補となるプロジェクトのリストから適格グリーンプロジェクトを選定します。

2.3 調達資金の管理

みずほ FG がグリーンボンド発行を通じて調達した資金と同額がみずほ銀行に融資され、みずほ銀行はこれを既存および新規の適格グリーンプロジェクトへの融資に充当します。グリーンボンドが残存している限り、みずほ FG は、みずほ銀行内部の融資データシステムとその出力情報を基に、全適格グリーンプロジェクトの融資に係るリストを管理します。本リストにより、グリーンボンド発行による調達金額と、適格グリーンプロジェクトとしてみずほ FG 内部の投資クライテリアを満たす資産（ローン）が等しいことを確認します。当該グリーンボンドの調達資金が適格グリーンプロジェクトに充当されるまでの

スクと影響の発生件数が少なく、概してその立地に限定され、多くの場合は回復可能であり、かつ、緩和策によって容易に対処可能なものを指します。カテゴリーCのプロジェクトは、環境及び社会に対しての負のリスク、又は影響が最小限、又は全くないものを指します。

間、調達資金はオーバーナイト取引やその他の短期金融商品に投資され、実務上可能な限りすぐに適格グリーンプロジェクトに充当されます。

グリーンボンドの元本と利息の支払いはみずほ FG の一般資金から行われ、適格グリーンプロジェクトのパフォーマンスに直接左右されることはありません。

みずほ FG はグリーンボンドによる調達資金が充当される適格グリーンプロジェクトについてのレビューと更新を年次で行います。売却、繰上返済、分割償還などによって不適格となったプロジェクトに充当されていた調達資金は、他の適格グリーンプロジェクトに再充当するものとします。

2.4 レポーティング

資金充当状況レポーティング

グリーンボンドが残存する間、みずほ FG は、ウェブサイト⁴上に、当該グリーンボンドによる調達資金の充当状況についての情報を公表し、閲覧可能な状態を維持するとともに、全額が適格グリーンプロジェクトに充当されるまで少なくとも年 1 回、全額充当後は新たな状況が発生した場合に必要な応じて、情報の更新を行います。この情報には以下の内容を含みます。

- (i) 当該グリーンボンドによって調達された資金の適格グリーンプロジェクトへの充当状況、充当を受けた適格グリーンプロジェクトの概要、融資残高、融資実行日
- (ii) グリーンボンドによる調達資金が、条件を満たす適格グリーンプロジェクトまたはオーバーナイト取引やその他の短期金融商品に投資されていることを示す経営陣のアサーション

独立した機関が調達資金の充当状況およびインパクト・レポーティングについて毎年審査を行い、充当状況とレポーティングが本フレームワークと合致していることを確認します。

インパクト・レポーティング

みずほ FG は、適格グリーンプロジェクトによる環境改善効果（インパクト）について、ベストエフォートベースで、調達資金の全額が適格グリーンプロジェクトに充当されるまで少なくとも年 1 回、全額充当後は新たな状況が発生した場合に必要な応じて、報告する

⁴ <https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/environment/index.html>

予定です。インパクトに係る報告は（実施可能かつ入手可能な場合に）、適格プロジェクトの 카테고리ごとの総計により開示します。

インパクトレポート指標例

No	プロジェクトカテゴリー	インパクトレポート指標例
1	再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の CO2 削減相当量（トン単位） ・年間発電量
2	汚染防止及び抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・回収、削減、リサイクルした廃棄物量 ・再利用率、リサイクル率 ・廃棄物発生量の変化率 ・水質汚染物質の削減量（m3）、削減率（%） ・大気汚染物質の削減量（m3）、削減率（%）
3	クリーン輸送	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の CO2 削減相当量（トン単位） ・大気汚染物質の削減量 ・対象となったインフラの総距離
4	グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得したグリーンビルディングの認証数と認証レベル
5	エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の CO2 削減相当量（トン単位） ・年間のエネルギー削減相当量 ・環境認証の取得数と認証の種類 ・導入した省エネ設備や省エネ製品の数
6	持続可能な水資源及び廃水管理	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の節水量（m3）、節水率（%） ・節水による年間の CO2 削減相当量（トン単位） ・水資源管理による受益者数
7	生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	<ul style="list-style-type: none"> ・環境認証の取得数と認証の種類
8	陸上及び水生生物の多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・環境認証の取得数と認証の種類 ・プロジェクトの対象となる土地の面積、保全面積の増加率

3 外部レビュー

みずほ FG はサステナビリティから第三者評価を取得し、みずほ FG のグリーンボンドフレームワークの透明性と健全性を確認しました。セカンド・パーティ・オピニオンは、みずほ FG の Web ページで公開されます。

4 付録

〈みずほ〉は以下の事項に参加・加盟・署名し、必要に応じて、その遵守とコミットメントを公に表明しています。

- Asian Corporate Governance Association (ACGA)
アセットマネジメント One が加盟
- CDP
アセットマネジメント One が参加
- Climate Action 100+
アセットマネジメント One が参加
- Climate Bonds Initiative (CBI)
みずほフィナンシャルグループが参加
- Cross Sector Biodiversity Initiative
みずほ銀行が参加
- Equator Principles
みずほ銀行が採択
- ESG Disclosure Study Group (EDSG)
みずほ銀行、みずほリサーチ&テクノロジーズ、みずほ信託銀行、アセットマネジメント One が加盟
- Global Financial Markets Association (GFMA)
みずほ証券が加盟
 - Association for Financial Markets in Europe (AFME)
みずほインターナショナルが加盟
 - Asia Securities Industry & Financial Markets Association (ASIFMA)
みずほフィナンシャルグループが加盟
 - Securities Industry and Financial Markets Association (SIFMA)
米国みずほ証券が加盟
- GX League Basic Concept
みずほフィナンシャルグループ、みずほリースが賛同
- Impact management Project (IMP)
みずほフィナンシャルグループ、みずほ銀行が加盟

- **International Corporate Governance Network (ICGN)**
アセットマネジメント One が参加
- **International Finance Corporation (IFC)**
みずほ銀行、みずほ証券、みずほリサーチ&テクノロジーズが参加
- **Japan Impact-driven Financing Initiative**
みずほ銀行、アセットマネジメント One が署名
- **Japan Stewardship Initiative (JSI)**
みずほリサーチ&テクノロジーズ、アセットマネジメント One が参加
- **Japan Sustainable Investment Forum (JSIF)**
アセットマネジメント One が参加
- **The Montreal Carbon Pledge**
アセットマネジメント One が署名
- **Net Zero Asset Managers initiative**
アセットマネジメント One が署名
- **Net-Zero Banking Alliance**
みずほフィナンシャルグループが加盟
- **Partnership for Carbon Accounting Financials (PCAF)**
みずほフィナンシャルグループが「PCAF Japan coalition」の議長に就任
- **Principles for Financial Action towards a Sustainable Society**
みずほフィナンシャルグループが署名
- **Principles for Responsible Banking (PRB)**
みずほフィナンシャルグループが参加
- **Principles for Responsible Investment (PRI)**
みずほ信託銀行、みずほリアルティ One、みずほアジアパートナーズ、アセットマネジメント One が署名
- **RE100**
アセットマネジメント One が参加
- **Taskforce on Nature-related Financial Disclosures Forum (TNFD)**
みずほフィナンシャルグループ、みずほリサーチ&テクノロジーズ、アセットマネジメント One が参加
- **TCFD Consortium**
みずほフィナンシャルグループ、みずほリアルティ One、アセットマネジメント One が賛同
- **UNEP FI**
みずほフィナンシャルグループが署名
- **United Nations Global Compact**
みずほフィナンシャルグループが署名
- **30% Club Japan**
みずほフィナンシャルグループが加盟

2023年4月1日

株式会社みずほフィナンシャルグループ

グリーンボンドフレームワーク（2023年2月）の訂正

「グリーンボンドフレームワーク（2023年2月）」につきまして、2023年4月1日付の組織改編に伴い、記載内容を一部訂正させていただきます。訂正内容は以下の通りです。なお、サステナリティクス社より取得したセカンド・パーティ・オピニオン（評価日：2023年2月20日）の効力に影響はございません。

1. 訂正する文書

グリーンボンドフレームワーク（2023年2月）

2. 訂正内容

「2.2 プロジェクトの評価と選定プロセス」において、以下のお読み替えをお願い申し上げます。

訂正前	訂正後	記載箇所
(みずほ銀行) プロジェクトファイナンス営業部	(みずほ銀行) サステナブルプロダクツ部	・「環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス」 p.11 11～12行目
(みずほ銀行) シンジケーション部	(みずほ銀行) サステナブルプロダクツ部	・「2.2 プロジェクトの評価と選定プロセス」 p.11 2～3行目
(みずほFG) グローバルプロダクツ業務部	(みずほFG) コーポレート&インベストメントバンキング業務部	・「2.2 プロジェクトの評価と選定プロセス」 p.11 3行目 ・「適格グリーンプロジェクトの選定」 p.12 2～3行目

以上